



JAC 北九だより

NO.55 (平成23年第1号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部
Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行: 社団法人日本山岳会北九州支部
事務局: 北九州市門司区新原町12-27
関口 興 洋 方
TEL・FAX 自宅 093-382-6436
携帯 090-8919-6776
発行人: 大庭 常生
編集人: 伊藤久次郎・関口興洋
印刷: 山口県山口市氷の上町2-25
内藤製本所



謹賀新年

2011年



次の20周年に向けて歩き出そう 支部 創立10周年記念式典

No.13499 伊藤 久次郎



(社)日本山岳会北九州支部 創立10周年記念祝賀会
平成22(2010年)10月30日 ホテル「アルモニーサンク」

(ビデオカメラから)

日本山岳会北九州支部は、平成12年、全国25番目の支部として誕生し、昨年10周年の節目を迎えた。その記念行事をさる10月30日、小倉北区のホテル「アルモニーサンク」(旧九州厚生年金会館)で記念式典を、翌31日に記念山行などをおこなった。参加者は尾上会長をはじめ、北は北海道から南は宮崎まで、総員82人が北九州支部の10周年を祝った。

記念式典 (午後3時～)

1. 支部長あいさつ

北九州支部創立10周年にあたって

支部長 大庭 常生

本日は、北九州支部誕生10周年記念行事に、ご参加いただきありがとうございます。

まず、この行事の柱となる記念講演を、尾上会長が快くお引き受けいただいたことに厚くお礼申し上げます。演題もご自身がかかわった「ナイロンザイル事件と東海支部」を選んでいただきました。どんなお話が聞けるかと楽しみです。

さらに、若輩者の当支部のために全国各支部から総勢30人もの方々がご参加いただいております。

また、ナイロンザイル事件にかかわった石原さんも特別参加いただいております。支部を代表して心から感謝申し上げます。

さて、北九州支部もこの10年で、何とか月例山行も定着いたしました。また、会員相互を結ぶきずなとしての会報も、定期発行を維持してきました。さらに、支部の諸行事の企画、実施にわたって、大黒柱の役を務めていただいております関口事務局長を加えた3つの車輪によって、ここまで進んでくることができました。この場を借りまして、山行リーダーの方々、伊藤編集長、関口事務局長に支部としてお礼申し上げます。

問題は、次のステップアップに向かったの活動をどう進めるかです。本部でも指摘されている、会員の高齢化は当支部でも直面している問題です。何としても若者との接点を早急に見いだす努力が必要でしょう。また、支部の更なる活性化策として、会員の多様なニーズに応じた専門部の設置(登山技術勉強会、山岳写真、山スキー等)の検討、そして数年先には支部のルームを持つことも目標に、今日から次の20周年に向けて元氣よく歩き出しましょう。

2. 記念講演

(午後3時30分～)

記念講演は、一般の人も聴衆として受け入れ、尾上会長が約1時間30分にわたって熱弁をふるった。

○ 演題 「ナイロンザイル事件と東海支部」

○ 講師 日本山岳会会長(元東海支部長) 尾上 昇

○ 講演内容 前語りとして、なぜ自分が、この事件の話をするようになったか、についてから語りはじめた。

それは、2006年1月、NHKが、小説「氷壁」のドラマを放映することになり、これが大きな関心と呼んだ。名古屋のある山岳会から講演を依頼され、この事件は、東海支部の創始者である石岡茂雄先生が主人公で、さらには、本日この会場におられる石原国利さんも創設者の1人で、この事件の1人でもあり、2人も主人公がそろっているのだ、東海支部で話をしてもらいたいと言われて話をするようになった。また、この事件は、いろいろなものに波及している。社会のいろんな問題、人間関係、そしてナイロンザイル事件のような事件が、続々と発生してきた。例えば水俣病事件、森永ヒ素事件、カネミ油症事件など、企業が起こしたスキャンダラスな事件がいっぱいある。それを思うと、この事件は風化させてはいけな^{みなまた}い。ナイロンザイル事件は、我

々に対する戒めであり、社会の警鐘である。自分は当事者でないが、これは、語り継いでいかねばならないと思い、本日は「語りべ」としてお話しすることにした。



石原 国利氏(重慶恒夫関西支部長撮影)

このナイロンザイル事件は、昭和30年の事件がベースとなっており、当時私はまだ中学生であった。当時、三重県の鈴鹿市に岩稜会という山岳会があった。その創始者で会長であったのが、主人公の石岡茂雄さんであった。その会が、前穂高東壁のAフェースから頂上へ抜ける冬の登攀^{とうはん}が、

当時未踏であったルートを、今ここにおられる石原国利さん、それに石岡さんの実弟若山五朗さんなど3人の若者が挑戦した。3人は頂上直下でビバークし、翌朝トップを登っていた若山五朗さんがスリップ、確保していた石原さんは何のショックもなく、当時麻ロープより強いと言われていたナイロンザイルが切断、若山さんは墜死した。この遭難事故がナイロンザイル事件の発端となった。・・・(以下事件内容省略)

このナイロンザイル事件は、井上靖の小説「氷壁」になったり、映画にもなっているので、どうぞ、一度ご覧いただきたい・・・とナイロンザイル事件の話を締めくくった。

3. 記念パーティ(午後6時～)

続いて記念パーティが、日向会員の司会で始まり、北九州支部の長老、藤田傳会員(83歳)の乾杯で懇親会となった。各支部からいただいた、たくさんの酒を味わいながら宴は進み、



全員で坊ガつる讃歌を合唱

各支部の自慢話などが、北海道支部から宮崎支部まで順々に紹介。宴もたけなわになったところで、松本、梅木、両作詞者を中心に、全員肩を組んで坊ガつる讃歌を合唱した。引き続き全員が首に「まめしぼり」掛けて、会場の3



記念パーティでは、炭坑節の総踊りで、フィナーレを締めくくった。(重慶恒夫関西支部長撮影)

カ所のスクリーンを見ながら、北九州支部恒例の炭坑節総踊りで記念式典の幕を閉じた。



記念山行「英彦山登山」に参加した皆さん

② 第1の判断ポイントの「鬼杉」に到着時点では雨はなく、次のポイントの中岳では、薄日も差しこみ、雨の心配もなくなったので、A班、B班とも予定通りのコースを歩き、全員事故もなく、無事下山することができた。

これも、北海道を始め、遠路各地から参加していただいた皆様の熱意が天に届いたたま物と思い、参加者の皆様に感謝する次第です。

〔コースタイム〕

07:50 ホテル「アルモニーサンク」をマイクロバス、マイカーで出発
09:45 大権現駐車場を出発
10:15 鬼杉登山口
10:35 鬼杉
12:00 南岳頂上
12:15 中岳頂上(昼食と集合、写真撮影)

4. 記念山行 (10月31日)

霊峰・英彦山(1,200^m)

13992 山田 武史

平成22年10月31日(日)、北九州支部創立10周年の記念山行として、英彦山(1,200^m)登山を行った。

この山は、福岡と大分の県境にあって、日本三大修験場の1つであり(ほかには出羽の羽黒山、大和の大峰山)、また、江戸時代に霊元天皇より「英」の字を賜り英彦山(ひこさん)となった歴史の山。

登山ルートは主に

① 表参道—中岳 ② 鬼杉—南岳 ③ 豊前坊—北岳の3ルートがあり、更に支線や裏道もあって、種々の組み合わせで四季折々に楽しめる、県民の誇りの山となっている。

今回の山行は、総勢28人(他支部11人、当支部17人)を3班に編成の上

A班—1、A班—2及びB班の全員は、鬼杉～南岳～中岳まで同じコースを登り、中岳で昼食して記念撮影後、A班はB班と別れ、北岳～望雲台～豊前坊に下山。一方B班は、中岳から表参道を通り別所への下山でした。

両コースの特徴は、A班の北岳ルートは、鎖場あり岩場ありの厳しい登山道が続くが、B班の表参道ルートは、登山道は整備されているが、中腹の奉幣殿よりは石段となり、ひざに負担のかかる登山道となっている。

〔状況〕

① 大権現駐車場に全員が集合した時点では、雲は厚く小雨もパラついてきたので、これからの天候次第では、予定ルートを変更する事をアナウンスして、雨にならないことを念じながら出発した。

12:50 〃 出発

14:40 A班 豊前坊に下山、B班 別所に下山

15:00 ホテル「和(なごみ)」で入浴

15:50 解散、出発

〔参加者名〕

A班—1

山田武史(北九州)—総括 原 広美(同)—CL
長谷川雄助(北海道) 森 武昭(東京多摩)
重広恒夫(関西) 杉村 功(広島) 日向祥剛(北九州)
馬場基介(同) 内藤正美(同)—SL
原野幸雄(同) 中野洋子(同) 計 11人

A班—2

西村信子(北九州)—CL 酒匂輝昌(福岡)
岡本真理子(宮崎) 川畑康雄(宮崎)
西村俊二(北九州) 武永計介(同)—SL
柳 俊一(同) 吉田克己(同) 稲富 榮(同)
竹本正幸(同) 計 10人

B班

伊藤久次郎(北九州)—CL 新妻 徹(北海道)
景山容子(山陰) 伊澤寿高(同) 佐藤瑞穂(同)
高島拓生(北九州)—SL 関口興洋(北九州) 計 7人
総計 28人

観光コース

「関門海峡の歴史探訪」

No.13465 大 楠 益 弘

10月31日(日)、10周年記念式典の翌日、歴史探訪に出発した。順路と参加者は次のとおり。

〔順路〕ホテルアルモニーサンク8:18～手向山公園～和布刈神社～(関門大橋経由)～赤間神宮～平家一門の墓～春帆楼・日清講和記念館～観光会館12:38～侍屋敷長屋～功山寺～万骨堂～長府博物館～三吉慎蔵の墓～毛利家墓所～長府毛利邸～東行庵～小倉駅北口15:10



観光コースに参加した皆さん

(参加者) 工藤文昭(熊本)、中井俊一(山陰)、以下は北九州支部、大庭常生、井上 佑(CL)、溝部忠増、小林富雄、大楠益弘(SL)

探訪先の内、赤間神宮、功山寺については、全国支部懇報告(JAC北九だより44号)に触れているので、それ以外の主な史跡について述べてみたい。

(手向山公園) ここには宮本武蔵の頌徳碑がある。車でらせん状に登っていくと展望台がある。ここからは、武蔵、小次郎の決闘地巖流島の一部東端が見下ろせる。時に1612年4月13日という。後に武蔵の養子となる伊織はこの年に生まれている。武蔵の兄、甚兵衛の三男である。伊織は幼少時に養子になり、15歳で明石10万石の藩主小笠原忠真に仕え、20歳で家老となる。同年小笠原藩は小倉に移封される。武蔵も小倉に数年居住し

たが、1640年熊本へ移住している。1654年伊織は藩主忠真から手向山を拝領するに及び、そこに武蔵をしのんで頌徳碑を建立するに至った。幕末、この赤坂周辺は、門司白木原から上陸した高杉晋作率いる長州藩と小倉、肥後軍との激戦地となる。

(和布刈神社) 仲哀天皇のころ(西暦200年)の創建で、門司最古の神社と伝えられている。古事記の山幸、海幸の話が、この神社に残されている。海峡の干満をつかさどる五柱の神々が祭神となっているという。初代神武天皇は、五柱の内の第一座比売大神の子であると伝えられている。神前にて執り行われる和布刈神事は、戦前は非公開であったが、現在は一般に公開されている。対岸の下関住吉神社は、今でも公開されていない。

(東行庵) 東行は高杉晋作の号であり、1869年奇兵隊が解散するまで、その本陣があった。隊士は400人を数えたという。小月に近い吉田の清水山にある。下関で芸妓をしていた「おうの」が晋作の愛人となり、その死後尼となって庵を結び晋作の菩提を弔った。高杉晋作、白石正一郎の墓はもとより、各地に散在していた奇兵隊隊士の墓をここに改めて移設している。

短時間ではあったが、維新の地を訪ね、また長府の武家屋敷に囲まれて歩く内に、時計の針が逆転し、幕末、維新の雰囲気を感じられ、志士らの心意気が伝わってくるような一刻であった。

参加メンバーは少人数であったけれども、歴史はお手のものの井上佑チーフリーダーの懇切丁寧な案内で、終始和やかな時を過ごすことができた。

北九州支部10周年記念行事参加者(敬称略)

(本部) 尾上 昇 (東海) 石原國利 (北海道) 新妻 徹 長谷川雄助 (東京多摩) 森 武昭 (関西) 重廣恒夫
(山陰) 中井俊一 影山容子 伊澤寿高 佐藤瑞穂 (広島) 杉村 功 兼森志郎 三好 勇 渡辺勝俊
(福岡) 松本徹夫 副島勝人 渡部秀樹 酒匂輝昌 佐々木耕二 高木荘輔 (熊本) 工藤文昭 (東九州) 梅木秀徳
西 孝子 星子貞夫 中野 実 (宮崎) 岡本真理子 川畑康雄 末永軍朗 多田周廣 (北九州) 吉村健児 江頭精一
藤木良憲 大庭常生 日向祥剛 井上 佑 溝部忠増 大城戸昌敏 原 広美 大楠益弘 板倉健一 伊藤久次郎
西村信子 濱松禮子 浦田和夫 馬場基介 磯野文雄 舩木 隆 三宅清和 高島拓生 末吉史忠 関口興洋 藤田 傳
西村俊二 太田 満 山田武史 高城季美子 内藤正美 原野幸雄 大石そなえ 中岡邦男 丹下 治 小林富雄 牧 寛
武永計介 榊 俊一 丹下香代子 大内喜代子 棕本逸雄 平野一幸 吉田克己 稲富 榮 坂本むつみ 和田英昭
池田智彦 木原 充 中野洋子 縄田正芳 赤瀬栄吉 竹本正幸 原田常代 太田満夫人 合計82人

ご 案 内

映画「氷壁」の上映会

日 時 平成23年2月11日(金・祭日) 午後2時～午後5時
場 所 毎日西部会館9階北九州商工会議所ホール(TEL:093-541-0175 総務課) 小倉北区紺屋町13-1
映 画 「氷壁」原作 井上 靖 昭和33年大映作品(菅原 謙二、山本 富士子主演)
日本山岳会尾上会長より頂いたDVDを上映します。
会 費 500円(会場使用料・備品代)
主 催 日本山岳会北九州支部(北九州支部創立10周年記念行事)
申込期限 平成23年2月6日
申 込 先 JAC北九州支部事務局(関口)宛て メールまたはFAXをお願いします。
メールアドレス: sekikoyo@sage.ocn.ne.jp、FAX: 093-382-6436

(*) 人数限定で地元山岳愛好家に一般公開いたします。

サロンの開催

映画会終了後、2月度サロンの日程を早めて、当日午後5時30分より「コール天」で開催します。
出席希望の方は事務局までお知らせ下さい。(関口)

2010年 年次晩餐会に参加して 皇太子さまも3年連続出席・新会員の同期に船村 徹 大作曲家が

No.14715 青木 信也

今年度の日本山岳会年次晩餐会は、12月4日品川プリンスホテル・アネックスタワーで開催されました。以前から山田武史さんに、「この晩餐会には皇太子殿下も出席されるし、会場で紹介され壇上に立てるなんて新入会員の特典だから、是非出席するといいい。」と勧められていたこともあり、早速に参加を決めておりました。

10月2日には本部で新入会員のオリエンテーションが開催され、この時集まった仲間で同期会結成を約束し、晩餐会当日の16時半から同期7人で結成式(単に喫茶ルームの円卓テーブルでお茶を飲んだだけで…)を開きました。会長は埼玉支部の綾部昌利さん(大学で探検部だったそうです)、あとの6人が幹事となり、会の規約などを話し合いました。晩餐会は席が自由ということもあり、我々はまとまって「八幡平」テーブルへ。テーブルマスターは日本登山医学会理事の肩書きを持つ女医の野口いづみさ



鏡開きの皇太子さま(中央)

が沸きました。

我々同期会の集まりの中では、「作曲家と同姓同名の人がいるんだねー」とか話していましたが、本物

と分かり「同期に日本の大作曲家あり!」と大感激。私も壇上では船村さんの隣に立って、間近に皇太子殿下、谷垣自民党総裁、尾上会長を見ることができると、なかなか経験のできない一場面となりました。

晩餐会後半では、ちゃっかり船村さんと名刺交換や写真を撮ったり、北九州支部の皆さんとあいさつをしたりと、大いに盛り上がりました。

最後になりますが、今年は積極的に山岳会行事に参加して参りますので、よろしくご指導をお願い申し上げます。また、北九州支部の新入会員の皆さんも

同期会に入会をお願いします。

年次晩餐会に参加して

No.14689 大内 喜代子

私は今年4月より正会員になりました。北九州支部から平野一幸さん(14691)、青木信也さん(14715)、中野洋子さん(14816)、それに大内の4人が晩餐会に初めて出席しました。12月4日、皇太子殿下もご臨席され、日本山岳会会員である先人たちの、功労表彰式や体験談を



今年の新入会員(北九州支部から4人も壇上へ)

ん。その他に千葉支部の石岡慎介さん、福岡支部の酒匂輝昌さんが同席されました。

晩餐会は期待通り3年連続で皇太子殿下が出席され、冒頭尾上会長があいさつされ、日本山岳会の現状について、会員の減少、高年齢化が大きな課題で会長就任以来悩んでいたところであるが、今年度は近年まれに見る140余人の新入会員を迎えることができた。皆さんの活動のお陰と感謝している、と述べられました。

新入会員の紹介では、出席した33人の新入会員の代表として作曲家の船村徹さんがあいさつ。故郷の栃木の山々を思い「山の日」制定に全面的に協力したく会員となった旨のあいさつに会場から大きな拍手

目の当たりにして深く感動しました。また、日本山岳会の現状等に話が及ぶと、一員としてどうかかわっていくべきか、考えさせられました。今回、日程上不参加のつもりでしたが、10日前に急きょ参加可能となり、個人行動で上京しましたので、ブレ山行の越前岳に同行できず残念でなりません。しかし、3年前でしたか、支部会員の時、ブレ山行のみの参加で、丹沢山行を一緒にさせていただき、すばらしい紅葉の景色と、尾根歩きでは富士山のすばらしい景色を間近に見て感動した事を思い出しました。



富士山をバックに越前岳山頂で

晩餐会ブレ山行「越前岳(1504m)」 快晴に恵まれ、富士を背負って登る

12月3日(金) 北九組と福岡組は、昼前、羽田空港で合流し、越前岳の登山口に近い宿「富士遊湯の郷・大野路」(静岡県裾野市須山)に宿泊した。

4日(土) 午前8時、宿のマイクロバスで登山口へ。8:40登山開始。素晴らしい天気恵まれ、また目の前

の素晴らしい姿の富士山を背にして登った。11:00ごろ越前岳頂上に到着。早い昼食を済ませ、晩餐会出席のため早々に下山した。13:00送迎バスで三島駅へ。新幹線で品川へ。14:33、当日の宿「品川プリンスホテル・メインタワー」着。汗を流し、スーツに着替え、いざ晩餐会会場へ。以下青木氏の原稿に同じ。(伊藤Q)

○ 晩餐会ブレ山行 越前岳参加者

(福岡組) 山田武史、大石そなえ、小林富雄、榊 俊一、平野一幸	5人
(北九州組) 原 広美、伊藤久次郎、濱松禮子、高畠拓生、関口興洋、中野洋子	6人
(特別参加) 森 武昭(東京多摩)	

合計11人

○ 晩餐会参加者

日向祥剛、原 広美、板倉健一、伊藤久次郎、濱松禮子、高畠拓生、関口興洋、藤田 傳、 山田武史、大石そなえ、小林富雄、榊 俊一、大内喜代子、平野一幸、青木信也、中野洋子、	計16人
---	------

東九州支部創立50周年記念式典と登山

No.13643 関口 興 洋

北九州支部の創立10周年記念行事が終わった1週間後の11月6日(土)～7日(日)にかけ、東九州支部の創立50周年の記念行事が開催され、当支部から大庭支部長以下11人が参加した。

6日、記念式典が始まる前の時間を利用して、コンパルホール「市民ギャラリー」に展示されている「登山に関する各種資料」を参観した。1960年創立以来の海外遠征に関する写真、由緒ある書籍、山道具など興味深い内容であった。

午後2時30分から「多目的ホール」で記念式典が開催され、梅木支部長のごあいさつのあと、本部の神崎忠男副会長の祝辞が続いた。そのあと、橋本祥案会員(4375)が永年会員として表彰されたが、元気な姿に感銘を受けた。引き続き、記念講演会が開催され、神崎副会長の「日本山岳会と私」と題してユーモアあふれるお話を伺った。最後は日本山岳会会員で愛知県山岳連盟の石川富康会長の「美しき七つの峰」という演題で、世界最高齢者で七大陸



記念公演中の神崎副会長

の最高峰に登頂した実績をベースに大変興味あるお話を拝聴した。体力・精神力の維持は大変なことであるが、度々の海外遠征を可能にした経済力と時間の確保にまず脱帽というのが率直な感想であった。

記念祝賀会とはところを移し、大分センチュリーホテルで午後6時から開催された。会場に配置さ

れたテーブルの名前が大分県の名山でカバーされているが、「元越山」と「縦木山」の2山はまだ未知の山である。いつか訪ねたいと思う。10のテーブルが80人の出席者でうまり、時の経過(アルコールの消費量)とともにお祝



鶴見岳山頂に勢揃いした参加者

い気分が盛り上がり、アトラクションの披露で最高潮に達した。

7日の記念登山の目的地は鶴見岳である。

昔、観光客としてロープウエーを利用して霧氷見物をしたことがあるが、足を使って登るのは今回が初めてである。隣の由布岳は何回も登っているが、なぜか鶴見岳は観光地という先入観があり登山の対象として敬遠していた。しかしながら、今回初めて鳥居登山口(神社駐車場)から登り鶴見岳の頂上に立ち、南平台を経由して下山したコースは日曜日にもかかわらず静かで秋色を十分味わうことができた。特にマユミの年季の入った樹相が印象的であった。頂上手前の休憩ポイントで豪華なお弁当を頂く。昼食後、頂上で全員の記念写真をとり南平台に向かって下山にかかる。心配された雨天にもあわず楽しい山行でした。

今回、パーティリーダーを勤められた東九州支部の加藤英彦会員に御礼申し上げます。

(タイム)

神社駐車場発 (9:25) ~ 南平台分岐 (10:05~10:11) ~ 休憩ポイント (11:25~12:00) 山上駅出発分岐 (12:24) ~ 南平台 (13:17~13:22) ~ 南平台分岐 (13:53~14:01) ~ 神社駐車場 (14:40) 解散 (15:00)

<参加者> 敬称略

大庭常生、日向祥剛、原 広美、板倉健一、伊藤久次郎、西村信子、高畠拓生、関口興洋、山田武史、大内喜代子、中野洋子 計11人

東九州支部50周年記念山行参加 鶴見岳(1375^{メートル})

No. 14816 中野 洋子

参加者 57人と人数が多いため、A・B・Cの3班に分かれての山行となった。

権現神社の駐車場で各々体操をし、総リーダーの指揮のもとA班より出発(09:25)。朝方降った雨ですべる石段を気をつけながらゆっくりと登っていくと、途中わき水がある。ここでのどを潤し、更に進み権現社で安全祈願をしてから、社務所の横より登山道に入る。

1度林道に出て再び自然林の中に入っていくこの道は、一気登山道と言い毎年4月に行われる、幹線自動車道を使わず駆け上る大会でつかわれる道、また同じコースを徒歩で登山する「のびのびウォーク」のルートである。私たちは落ち葉を踏み紅葉を楽しみながら、ゆっくりと登っていく。しばらくすると、南登山道との分岐(10:06)にでるが、今回は下りに使うので右の一般道に進む。途中の赤・黄・緑色の織り成す風景は、長くジグザグした道のりの疲れを忘れさせ、一瞬の光にまぶしく映る木々の葉が私の心を躍らせる。やがてロープウェイ駅との分岐の標識を見て左に足を進めると広場になる。山頂は近いのだが、人数が多いため、ここで昼食タイム(11:25~12:00)。ガスがかかり周りは何も見えないが、お祝いにと日向さん持参のシャンパンが抜かれ、豪華なお弁当に華を添える。ぜい沢な時間は、アッ! というまに過ぎてしまった。A班から頂上(1205)へ、天気が良け

れば東に別府湾・四国、西は由布岳・九重山、南は城島高原と展望が楽しめるのだが、やはり何も見えない。

ロープウェイで、登ってきた観光組と合流し、64人全員で記念写真を撮り万歳三唱で閉め、下山となった。

下山(12:25)は馬の背(12:40)を通り、南平台から神社に戻るコース。西の窪(くぼ)(13:00)を過ぎると、地震予知能力があり、予知すると石が踊りだすといわれている「踊り石」にあう。地震はないことに限るのだが、土の上に軽載っている感じのする、この大きな石が踊るところを見てみたいな～と思いつつ、南平台への最後の登りに取りかかった。ここは由布岳・鶴見岳の見える平たん地、途中、全容が見えたのだが、すぐガスの中に入ってしまった。私たちを迎えてくれたのは、だれにも

踏まれることなく、つぼみのついたりんどうと、1輪ほどかわいくお花をつけたミヤマキリシマでした(13:20)。きっと、お花の時期には多くの登山者を楽しませてくれることでしょう。これからは一般登山道と合流し、往路を下り、全員無事に駐車場にたどり着くことができた。(14:40)

—参加者—

No.11395 大庭 常生	No.11427 日向 祥剛
No.11990 原 広美	No.13471 板倉 健一
No.13499 伊藤久次郎	No.13520 西村 信子
No.13541 高島 拓生	No.13643 関口 興洋
No.13992 山田 武史	No.14689 大内喜代子
No.14816 中野 洋子	計11人

平成22年(2010年)度

新趣向で盛り上がった忘年の集い

北九13992 山田 武史

平成22年12月11日(土)18:00から「ブルーウェーブイン小倉」で、本部会員、支部会員合わせて39人が参加して、22年度の忘年会を開催した。

今回は従来の趣向を変えて、若手3人(板倉、磯野、山田)が進行を担当。関口事務局長にもオブザーバーとして参加を願い、新しい企画で、楽しい忘年会にするため、3人で事前の打ち合わせを行った。

当日の会の進行は、磯野会員の司会のもと、

1、開会宣言と、22年5月に韓国智異山登山中に亡くなった室津会員のめい福を祈って黙とう(山田会員)

2、大庭支部長のあいさつ

3、大楠副支部長の乾杯

で、開宴となった。

アルコールも入り、歓談も深まったころ、余興に移った。

まず、ジャンケンゲームから始め、全員が100円玉を左手に握り、相対する人とジャンケンして、負けた人は相手に100円玉を渡し、着席するゲーム。最後に残った高島さんと末吉さんの2人の決戦は、高島さんが勝ち、3、800円を獲得したが、高島さんは全額を支部に寄附された。続いて、ビンゴゲームを行い、一息入れたところで全員が輪になって「炭坑節」を踊り、フィナーレを飾った。

最後に全員での記念撮影のあと、中締めあいさつ(板倉会員)、万歳三唱(伊藤副支部長)で、20:00に終宴となった。

担当係より、多数の参加で、楽しい忘年会ができたことを皆様に感謝いたします。



[参加者]

大庭常生、溝部忠増、原 広美、大楠益弘、板倉健一、伊藤久次郎、西村信子、濱松禮子、浦田和夫、馬場基介、磯野文雄、三宅清和、高島拓生、末吉史忠、関口興洋、藤田 傳、西村俊二、山田武史、高城季美子、三木靖子、丹下 治、小林富雄、牧 寛、大木康子、神 俊一、丹下香代子、大内喜代子、福田陽子、中野洋子

足立明夫、坂本勝喜、坂本むつみ、森本信子、池田智彦、木原 充、山内英俊、赤瀬榮吉、半田路子、井上 薫 計 39人

2011 A HAPPY NEW YEAR

No.11977 溝部 忠増

みなさん、新年を明るく元気よく迎えられましたか。早速、初登山はどこに出かけられましたか。この一年も、多くの山にチャレンジをして、山歩きの喜びを味わってください。

私は、50歳の秋に山と出会って以来、およそ30年間、山は人生の道場でした。みなさんどなたも、山登りは、つらい、苦しい、汗をかく・・・きたない。それでも、生きていることの証明ではないでしょうか。山、そこはまぎれもなく本物の世界です。急登の連続、息絶え絶えになって、「ああ、山なんか来るんじゃないかった」と後悔しきりでも、引き返すことは出来ません。「ああ、苦しい、来るんじゃないかった」と心の中で繰り返しながら、一步一步、足を上げていく。気がつくや尾根の上に出る。さわやかな風が頬をなでる。「ああ、なんて気持ちがいいんだ」。生きていることを実感させてくれる。さっきまでの、「来るんじゃないかった」は、空の彼方にすっとんでしまう。山頂、大自然のど真ん中にいる自分自身がとてもいとおしく見える。

まわりを眺めるゆとりが出てくる。緑が鮮やかで、

なんてきれいなんだろう。樹木は生きている。もちろん、自分も生きている。いや、生かされていることに気がつく。自分の発見です。

ここで、山でばてない歩き方をアドバイスしておきます。息を切らして、つらくて苦しい思いをしてこそ、自分の発見があります。ばてるより、ばてないほうがいいにきまっています。山でばてない歩き方は簡単です。歩幅を小さく、ゆっくり歩けば、それでOKなのです。

30余年の山歩きを続けた私の人生は、山を抜きにしては語れません。それだけに、これからの私の生活は、山と無縁になってしまったら、生きているのが嫌になってしまうでしょう。あるいは、私の生き方、人生観まで大きく変えてしまうでしょう。今の私には、山とのつながりのない暮らしなど、考えられません。

私は、今年八十路に入りました。出来れば、100歳まで生き抜きたいと思っております。ただ、生きるだけでなく、生きている限りは山々と向かい合ってゆきたい。それが、私の初夢です。

月例山行 10月23日(九重山)

紅葉の大戸越 男池～大戸越～吉部

北九433 縄田 正芳



霧が立ちこめる大戸越のあん部で

朝まだ暗い中、集合場所の九重「男池」^{おいけ}を目指して各グループは車を飛ばす。道の駅豊前「おこしかけ」に仮集合したのち、少し明るくなり始めた道^{はんだ}を一路飯田高原JA物産館へ。途中の由布岳付近の道は濃い霧が風に流れており、寒々とした景色で、今日の天候に不安を感じさせる。無事JA物産館で福岡からの山田車と合流し、総勢12人で出発。吉部に下山時の車を置き、分乗し直して登山口男池へ。9:30着。この時間すでに駐車場にはいっぱいの子車。どんよりとして暗く、いつ雨が降ってもおかしくない天候なのに、この車の多さには驚く。各々準備ののち、手短に自己紹介と山での注意のあと10:00登山開始。

今日のコンセプトは「紅葉」、さてどうであろうか・・・期待に胸をはずませる。まず男池の入口で木戸銭^{きどせん}?を払い入山。ひんやりした樹林の中に

コンコンとわく湧水を見、そしてあ
りがたく味わう。冷たくて甘い。夏
場のこの水はさぞかし美味しいで
あろうと思う。駐車場にはあれだけ
多くの車と人たちがいたのに、一
緒になる登山者は意外に少なく、
そんな中、霧雨にぬれ、滑りやす
くなった岩の多い山道を一步一步
気をつけながら登る。少し登った
あたりから、ところどころに赤や黄
色に色づいた木々が見えてくる。
残念ながら全山紅葉とは言えない
が、目を楽しませてくれる。1時間
あまりで急なこう配を切り切ると、
突然平らなくぼ地が現れる。“ソバ
バツケ”である。どういう意味なの
か素朴な疑問がわく。小休止のあ
と、今日の目的地大戸越を目指す。
ここからの道は傾斜もなだらかで歩
きやすく、高度も上がったせいか、
周りには赤や黄色に鮮やかに染ま
ったカエデの類が多くなり、ゆっく
りと落葉を踏みしめながら紅葉を楽
しむことができる。今日のコンセプ
ト「紅葉」は達成!。天気のこと
は別として期待通りの秋でした。紅
葉の樹林帯を登り切り12:00、予定
通りに大戸越へ。峠は強い風に霧
が流れて寒く、眺望もきかないの
は残念でした。しかし幸いにして雨
にはならず助かり、風を避けての
昼食となる。そんなところに西村さ
んの山仲間が通りかかり「あらまあ
一〇〇さん、どうしたの!」と大き
な声でのにぎやかな会話が始まり、
寒い中に一瞬明るく暖かな空気が
漂う。山での知人との出会いはう
れしいものである。昼食後12:50、
吉部へ向けて下山を開始する。緩
やかな傾斜の広葉樹林の道を
平治岳を巻くようにして降りてゆく。
途中の木々も美しく紅葉しており、
落葉と土の山道はひざにも優しく快
適な道でした。下ること2時間で
大船林道との合流点へ。そこでこ
れから法華院へ入る青木さんと別
れ、また林道を下る。しばらくして
旧道に入り、15:30、今朝車を置い
た林道入口の駐車場に着く。さす
がに麓は天気が安定しており、うっ

すらと明るい陽もさしている。峠も
このような天気であったならと残念
に思いました。出発地の男池に置
いた車を回収したのちJA物産館へ。
16:00解散となり、各々グループに
分かれて帰路に着く。

私にとって初めてのルートでした
が、登りも下りも十分に紅葉を楽し
めたこと、そして特に下りの広葉樹
林帯の道は快適で素晴らしく、季
節を変えてまた是非歩きたいコー

スでした。山行を企画されたリーダ
ー、サブリーダー、そして同行され
た方々、大変ありがとうございました。

参加者

CL西村 信子	SL山田 武史
関口 興洋	西村 俊二
高城季美子	大木 康子
椋本 逸雄	青木 信也
森本 信子	中野 洋子
縄田 正芳	井上 薫

月例山行 12月 宮島の最高峰「弥山」

広島支部会員2人がガイド役で

No.14523 大木 康子



宮島の最高峰「弥山」をバックに。駒ケ林で(小濱氏撮影)

12月7日、参加者14人が下関火
の山パーキングに集まり、6:30、3
台の車に分乗、山陽道を宮島桟橋
に向かって出発する。走り始めて
から雨が降り出した。宮島の天気
予報は雨なし、曇りのはずなのに
・・・あとは祈るだけ。

9:00宮島口に着くころには雨もや
んだ。福岡から山田さんが新幹線
で来ていた。今日案内してくださる
広島支部事務局長渡辺勝俊さん、
兼森路子さんも到着。全員17人そ
ろった。

コース及びルートの説明を受け
る。一般ルートではない、眺めの
良い階段の少ないコース、楽しま
す。フェリーで晩秋の宮島へ、

人が少ないのにびっくり、平日の
せいかしら。皆さんは名物「あな
ご弁当」を買って求めていた。

“厳島神社”海に浮かぶ朱塗りの
社殿はまるで竜宮城を思わせる美
しさです。

登山口は多宝塔ルートをゆっくり歩
いて弥山山頂まで2時間30分。先
頭は渡辺事務局長、次は原さん、
あと15人続く。渡辺さんの大きなザ
ックは何か入ってるのでしょうか、
気になります。

とりつき花崗岩(真砂土)の山
道坂道が続く。振り返ってみると多
宝塔の向こうに浮かぶ大鳥居が感
動の一瞬。絶景、絶景の連続。休
憩、朝日観音コースで一番急登。

弥山に次ぐ高さの駒ケ林(505.8^米)に着く。厳島合戦の古戦場。平らな巨岩が階段状につみ重なる駒ケ林山頂。大敷岩から瀬戸内海360度の展望。今日はおしくも、やや曇り、でも素晴らしい眺めです。弥山の山頂も目前です。ここの岩で昼食となった。海風が冷たい。岩陰を探しランチに入る。気になるザックからなんと「豚汁」の材料が次々と。兼森さんの無農薬で作った野菜での豚汁。皆カップとおはしを持ち豚汁を待つ。おいしいおいしい、おなかの中までしっかり暖まりました。心のこもった差し入れありがとうございます。

食後13:35、駒ケ林裏を回って弥山山頂へ出発。30分くらいかな、弥山本堂で温かいお湯を飲み石段を上がり、神が降りたと言われる

巨岩群弥山山頂(535^米)に14:05に着く。四宮ルート(東側)15:10下山。紅葉谷公園に無事着いた。ポツポツ雨が降り出した。兼森さんおすすめのミヤトヨ本店で「もみじまんじゅう」を買い、お茶をいただき宮島口フェリー乗り場へ。15:55発に乗り、16:00 宮島口着。広島支部の渡辺事務局長さん、兼森さんとのお別れの時が来ました。いろいろお世話様になりました。楽しい1日でした。豚汁ありがとうございました。(おいしかった!)

山田さんお疲れ様でした。お氣をつけて。私たち一同、下関火の山パーキングへと車を走らせました。18:40着。原さんCL、SL、運転してくださった皆さん、お疲れ様でした。心よりお礼申し上げます。また一緒に山行できますことを心待

ちにしています。

参加者
(広島支部) 2人

渡辺勝俊(事務局長)、兼森路子(北九州支部) 15人

原 広美(11990)、伊藤久次郎(13499)、関口興洋(13643)、山田武史(13992)、大木康子(14523)、大内喜代子(14689)、棕本逸男(14690)末次幸子(北九369)、吉村保夫(北九382)、中村周二(北九383)、矢富博雄(北九384)、岡本千尋子(北九391)、小濱 隆(北九426)、福村拓巳(北九440)、大河原由美(北九441)

<門司山歩会>12月例会

30キロウォークに参加して

No.14695 棕 本 逸 雄

日 時：平成22年 12月5日(日)
参加者：17人(門司山歩会、大楠さん以下9人、戸ノ上山登山会2人、北九支部1人、他5人)

コースは、大楠さんを先頭に、J R門司駅を7時30分にスタートし、小森江登山口から風師山の風頭山頂へと登り、下りは、もみじ谷(豊川稲荷神社)を経て海岸線へと出て、白野江～部埼(へさき)の灯台～めかり公園～JR門司港駅へとつづく30キロ／8時間30分の行程でした。当日は海岸から由布岳が望めるほど好天にも恵まれて、トレッキングにウォークに最適な1日でした。

特に印象に残った点は、風頭山頂からの関門海峡の眺め、もみじ谷の見事な紅葉に古さつ、豊川稲荷、白野江の塩工場と梅花石の産地(確認のみ)、青浜の釣り場、

部埼灯台の僧清虚の灯火跡、子供のはしゃぐ姿が印象的なめかり公園のジャンボな立体遊び場など、所々で十分な時間を取っていただき、歩くだけでなく観光スポットもたん能できたことに感謝しています。水石に多少興味が有り、白野江海岸での昼食時に、梅花石のかげらでもと探しましたが、簡単に見つかるはずはありません。道中、皆さん歩きながらも会話が弾み、長丁場でありながら、さほど疲れを感じさせないほど、なごやかな雰囲気でした。今回、門司山歩会9人のほかにビジター8人が加わり、その中で互いに話を交えたりして、楽しい雰囲気を作り出していたのも印象的でした。今後もこの種の計画を継続して、交流の輪を広げていってほしいと思っています。大楠さんをリーダーに、よくまとまった穏やかな会風と拝見していま

す。個人的に歩くことが好きで、本年2月27日(土)の同山歩会の史跡探訪10キロ／5時間ウォークに続いての参加で、顔見知りの方もいて、前回同様、楽しいひとときを過ごさせていただき感謝しています。

門司港で解散した後も大楠さんら女性2人を含む4人の仲間内で、門司駅まで35キロのフルコースを歩いて帰られた頑張り、初志貫徹には頭が下がります。また機会があれば山歩会の皆さまの輪に加われればと思っています。寄稿は大楠さんから感想を北九だよりにと要請され書きましたが、本年1月23日(土)に、二丈岳登山で初めて同山歩会を知り、今回と合わせ3度お世話になった経緯もあり、また初年度の北九だよりに年度計画の掲載もあり、それを見て今回参加したわけですが、姉妹グループ的な親しみを感じているところでもあります。今後ともよろしくお願いします。

平成23(2011)年 新春初登り 月例山行(1月16日) 天候:曇りのち雪

氷点下の小倉・足立山～門司・戸ノ上山縦走

北九437 竹本 正幸

北九州支部の新年山行は、小倉の市街地に近く、夜景のスポットで有名な足立山(597[㍎])から戸ノ上山(517[㍎])の縦走です。

前日からの天気予報では、二つ玉低気圧の発達と「今冬一番の寒気」で大雪の恐れありとのこと、心して懸かろうとアイゼンの点検、防寒対策をしっかりと臨んだ。

妙見神社登山口8時30分集合。参加者をチェックして8時40分に2班に分かれて出発。

1班の11人は、関口さんトップで、2班の11人は、山田さんトップでピスターリ、ピスターリで歩き出す。昨日の予報に反して積雪はなかったが、氷点下の気温で赤土混じりの登山道は凍っていた。スリッパに気を付け、支尾根をジグザグに登るとりょう線に出て砲台山との分岐に出る。

りょう線に出ると、関門海峡から吹き付ける風は遮るものが何もなく、風速10～15[㍎]の強風である。南東に雪を羽織った貫山の雄姿が鮮やかだ。

平たんな尾根道を歩くと、正面に見えてくる上宮への石段手前を右折する。このあたりから積雪もあり、急こう配の滑りやすい急登が終わると足立山頂である。

頂上からは北九州工業地帯、関門海峡が眼下に見渡せ、白波を立たせる冬の玄界灘が寒々しく感じる。高度成長期には、「七色の煙」と公害問題にもなった工業地帯も、環境も改善して静かな情景が現状の経済情勢をも伺わせる。

山頂でアイゼンを装着し、集合写真撮影後、北西の寒風に追われるように山頂を後に戸ノ上山へと向かっ



戸ノ上山山小屋前で。戸ノ上山登山会(末吉史忠、浦田和夫会員ほか6人)、門司山歩会(大楠益弘会員)、門司こもれび会(丹下 治、丹下香代子会員)のみなさんと。

た。長い急斜面を固定ロープに導かれて慎重に下り、樹林の中のアップダウンを繰り返すと、ベンチのある沼分岐につく。アイゼンを外し、さらに企救自然歩道を1時間ほど歩くと広大な大台ヶ原につく。

天候が良ければベンチで絶景を眺めながらのんびり昼飯でも……。今日は、猛烈な寒風でいち早くこの場を去りたい気持ちで歩幅が広がる。

戸ノ上山の登りで山頂から迎えて来た大楠さんと合流。10分ほどで山仲間の待つ戸ノ上神社上宮に着く。山頂の気温は氷点下2度。休憩舎の前で赤々と燃えるたき火とお酒で歓迎してくださった、末吉会長をはじめ戸ノ上山登山会の皆様の温かい思いやりにただただ感謝するばかりです。

猪汁は残念でしたが、お酒とたき火が最高のご馳走で、冷え切ったからだに内外から温まり命を感じる瞬間でした。宮司さんから差し入れのお神酒、焼酎、ワインと各種アルコールいただきながら遅めの昼食交流会となりました。

ブロック造りの頑強な避難小屋内では、備長炭の七輪2台と耐火煉瓦

の上に置かれたステンレスのドラム缶ストーブで暖を取り、目をこすりながらの山談義に花が咲く。延々と続く交流会も14時45分、名残惜しい中の解散となる。まだ残って交流する人、下山して帰路につく人に別れる。

妙見神社からの11.5キロ[㍎]の企救自然歩道は、幾つかのピーク越えのアップダウンが「続き、しっかり疲れさせてくれる最高のコースでした。」

コースタイム

妙見神社登山口8:40→足立山10:15→10:40→戸ノ上山13:30～14:45

参加者

23人(男性13人 女性10人)
11990原 広美、13499伊藤久次郎、13523濱松禮子、13532馬場基介、13534舩木 隆、13541高島拓生、13643関口興洋、13992山田武史、14045池田暁彦、14498大木康子、14690椋本逸雄、14807福田陽子、北九389森本信子、北九400倉本とき子、北九423橋爪久吉、北九424安田秀世、北九435赤瀬榮吉、北九437竹本正幸、北九438竹本加代子、北九442橋本明代、北九443今田智恵、北九446清家幸三、ビジャー大谷美恵子

新聞記事2題

1. 当支部の大庭支部長が、「山の日」制定運動に取り組んでいる記事。(平成22年12月6日、毎日新聞)(上)
2. 地元の山「英彦山」で、救助出動が前年より増加している記事。(平成22年11月14日、西日本新聞)(下)

每 日 新 聞 壬戌 22 年 12 月 6 日 朝刊

〔第3種郵便物認可〕

北九州大（現北九州市立大）の学生時代から山を愛した。新聞部員だったのが、時折さぼっては山を目指した。ある日、先輩に見つかって、「怒られん」と構えると「信州の冬山に登ってみたいか。初めて訪れた上高地は格別だった。北九州では見られない満天の星空群と朝焼けの美し

北九州府にはかつて各都府県の視光事務所がいくつもあって、近年、経費節減のための撤退や福岡市への移転が相次ぐ。そんな中、地域にしっかりと根付いているのが信州観光シタ―・北九州所長。すでに17年になる。前身は長野県事務所で、年間約4000人を信州にいさなう。

「3000級級の山々の素晴らしさ、とりわけ冬山の絶景が人々を魅了する」

「山の日」制定を訴え

―北九州として自活の道を探った。目をつけたのが「信州ふるさと宅配便」。特産品の販売あっせんだが、これが当たった。今夏の川中島白桃は5^時（18玉）3800円、秋の新品種りんご「シナノスイト」は5^時（16玉）2600円だ。安くはないが「安心安

歩む

さ。時間の経過に伴い、雪景色が白から紫、そして青、朱色に染まった。30分の間の光の芸術に言葉を失った。

北九州市職員として定年まで2年を残し93年、長野県九州総合案内所長に就任。その後同県に補助金を打ち切られ、信州観光センター

「若者に山の素晴らしさ伝えたい」

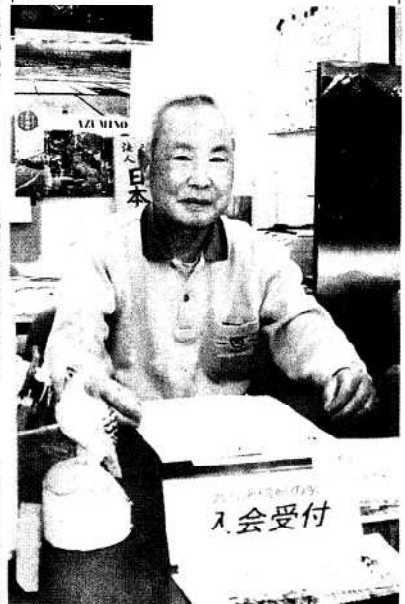
山の日はいつがいいの。即座に答えた。「入梅前の6月第一週目。九州の山登りシーズンは5月だが、信州は雪が残る。新緑が息吹く時期にしてほしい」。やはり信州へのこだわりをのぞかせた。【高橋克哉】

全でおいしい」と評判となり、リピーターが増え続けている。

日本山岳会北九州支部長でもあり「海の日（7月20日）があるなら山の日があってもいいじゃないか」と昨年からの「山の日」の制定運動にも取り組む。

シカが草を食べ尽くす食害や国産木材の価格下落、山の荒廃による土砂崩れ……。さまざまな課題に「『山の日』には、若者に関心を持ってほしいとの願

大庭 常生さん(75)＝若松区



「山の日」制定を呼びかける大庭さん

年間約15万人の登山客がある添田町の英彦山などで今年、遭難や負傷した登山客の救助で消防や警察が出動した件数が、昨年を上回っている。田川署によると「中高年の登山ブームの影響か、救

出される登山客は60歳以上が目立つ」という。紅葉シーズン真っ盛りで登山を楽しむ人が増える時期だけに、同署は「地図を用意するなど万全の準備をしてほしい」と呼び掛けている。

ブーム影響？目立つ60歳以上
田川署「万全の準備を

田川地区消防本部によると管内では昨年、要請を受けて出動したのは6件で、実際に救助活動をしたのは3件。これに対して今年は10日現在、出動すると多額の経費を要する案件数は7件で、救助したのは5件に上る。

負傷した人はいずれも骨折やすり傷などで、直ちに生死にかかわる事故はなかった。

だが、70代男性が山頂で「疲れて動けなくなつた」と家族に連絡したところ、あわてた家族が110番し、県警ヘリが出動したケースもあった。この男性は整備された

登山ルートではなく、斜面が急で岩場が多い通称「裏英彦山道」と呼ばれるルートを登っていた。田川署によると、ヘリが出動すると多額の経費を請求されるケースもあり、二万の場合に備え、事前に保険加入する登山者もいる」という。

同署英彦山駐在所の八幡貴史巡查部長は「もと

もと山伏が修行した修験の山。ハイキング感覚では登らないでほしい」とし、経験者の同行や地図の持参、駐在所への登山計画書の提出などを呼び掛けている。

英彦山救助出動が増加

ただ、みくりが池温泉の源泉は地獄谷温泉から引いてきており、夏しか営業していません。本沢温泉は通年営業していて、日本一高い露天風呂があります。高所にある温泉は気圧が低いので、温泉の効果が高いという説がありますが、実証はされていません。

山の詩

藤田 傳



秋の平尾台で 2010. 10. 19

羊群原やらドリネや
この大高原が果てしない
秋屋の低空ヘリに手
夕食時、秋の平尾台
空からヘリでテレビ放映した。
庚寅歳 神無月

秋の平尾台
移ろう季節
繞く酷暑は何処へやら
とややかに秋風が
肌で味合う季節感
すべし、稔波が揺れている
大平山く四方台から貫く山へ。

風師山紅葉観賞ハイキング報告

No.13465 大 楠 益 弘

一昨年1月に、門司地区山あるきガイドマップが発刊された。門司区役所まちづくり推進課の編集によるもので、役所の企画として実に画期的なものであった。ただし、若干の不備があり、この改訂版を修正することになり、当支部ほか地元の山岳会が協力して、完ぺきを期することになった。このいきさつについては、別の機会で触れることになるが、このかわりの結果として、上掲のイベントについてサポートの要請があった。

11月15日発行の市政だよりで、参加者募集をしたところ、多数の応募があった。詳細は以下の通りであるが、Aコースは17人参加、Bコースは21人の参加があり、Aは戸ノ上山登山会、浦田和夫(当支部会員)、壺岐勝、宝木幸治各氏と大楠。Bは風師山早朝登山会、小田幸男(門司歩こう会会長)、門司こもれば会、丹下治、丹下香代子(当支部会員)各氏がガイドを務めた。天気は良好、無風状態で快適な条件下、無事終了した。なお、主催者として門司区役所、石田NPO法人グリーンワーク樹本、川原各氏が推進力となった。

風師山 紅葉観賞ハイキング
平成 22 年 11 月 27 日 (土) 9:00 ~

主催：門司区役所まちづくり推進課
協力：日本山岳会北九州支部、風師山早朝登山会、戸ノ上山登山会、門司こもれば会

Aコース
JR門司港駅前広場
→もみじ谷
→風師山展望台
→風師山もみじ谷(昼食)・中原観音
→門司学園高校前
→JR門司港駅

晴れた恵まれ行楽日和となったこの日、Aコースは日本山岳会北九州支部と戸ノ上山登山会によるガイドの方々と、楽しくハイキングを行いました。青空の中広がる風師山からの展望に歓声が上がり、見ごろを迎えたもみじ谷の紅葉はほみなさん感動し、参加者からは「来年もまた開催してほしい」と要望が上がる盛況ぶりでした。

休いづばいに自然を満喫し、街の中から少し足を延ばすだけで体感できる門司の魅力を感じたハイキングとなりました。

説明もわかりやすく、楽しめました。

門司港を見渡せる素晴らしい眺め。

風師山の絶景を背景に集合写真です。

もみじ谷の見頃となった紅葉の中を歩きました。

NPO法人グリーンワークのホームページでも催事報告しています。http://www.green-work.net

グリーンワーク

美しい紅葉でみなさんの表情も明るくなりました。

風師山 紅葉観賞ハイキング
平成 22 年 11 月 27 日 (土) 9:00 ~

主催：門司区役所まちづくり推進課
協力：日本山岳会北九州支部、風師山早朝登山会、戸ノ上山登山会、門司こもれば会

Bコース
JR門司港駅前広場
→もみじ谷(昼食)
→中原観音
→門司学園高校前
→JR門司港駅

ゆっくり紅葉観賞を楽しみました

晴れた恵まれ行楽日和となったこの日、Bコースは門司こもれば会と風師山早朝登山会のガイドの方々と、楽しくハイキングを行いました。目的地のもみじ谷の紅葉はちょうど見ごろを迎えており、歓声があがる美しさ。青空の中に赤やオレンジ色の紅葉が一段と映えていました。

休いづばいに自然を満喫し、街の中から少し足を延ばすだけで体感できる門司の魅力を感じたハイキングとなりました。

白とりの紅葉の中を散策。

ガイドの方のわかりやすい説明を聞きながら。

閑静な緑園風の奥池公園を過ぎます。

もみじ谷の紅葉を満喫しました。

NPO法人グリーンワークのホームページでも催事報告しています。のぞいてみてくださいね。http://www.green-work.net

グリーンワーク

美しい紅葉の中で集合写真。

◇◇◇ 報告・お知らせなど ◇◇◇

会務報告

平成22年10月度 臨時委員会報告

日 時 10月19日(火) 午後6時30分から
場 所 小倉中央市民センター2階会議室
出席者 大庭、大楠、伊藤、関口、馬場、板倉、山田、磯野、高畠
欠 席 日向、大城戸

日本山岳会 北九州支部創立10周年記念行事の役割分担について、下記のとおり協議した。

【議 題】

1. 10月30日(土) 実施行事
 - (1) 参加者名簿の作成について
 - (2) 横断幕の準備について
 - (3) 名札、テーブル表示の山名札の準備
 - (4) 会場受付係
 - (5) 記念式典(司会、進行)について
 - (6) 記念講演(司会、講師)について
 - (7) 記録・映像担当について
 - (8) 記念撮影について
 - (9) 記念パーティーについて
 - (10) 二次会の設営について
 - (11) 宿泊者の部屋割りについて
2. 10月31日(日) 実施行事
 - (1) 山行の総括リーダーについて
 - (2) 観光の総括リーダーについて
 - (3) バスの手配について
 - (4) 弁当・飲み物の手配について
3. その他
 - (1) 記念誌の進捗状況について
 - (2) 入会申込書について
 - (3) 忘年会の開催について

(報告：磯野) 以上

平成22年11月度定例委員会報告

日 時 11月10日(水) 午後6時30分から
場 所 小倉商工会館3階会議室
出席者 大庭、大楠、伊藤、関口、日向、板倉、馬場、山田、大城戸、高畠
欠 席 磯野

【議 題】

1. 支部長会議(9月4日) 一大庭支部長
 - ① 社団法人化、② 山の日制定、③ JAC YOUTH、④ 事務局の設置、⑤ 支部の位置付けに関する報告があった。

2. 支部報編集者会議(9月5日) 一伊藤副支部長
3. 第26回全国支部懇談会(9月5日) 一関口事務局長
4. 同上記念登山(9月6日 高尾山) 一高畠監事
尚、2、3、4の項目は「JAC北九だより」10月号に掲載しているので、省略。
5. 会員の異動と会費納付状況について 一馬場委員
本部会員 77人、支部会員80人、会友5人、会費未納者11人
6. 10周年記念行事(10月30日～31日)の総括と反省
 - ① 記念式典、② 記念講演会、③ 記念パーティー、④ 記念誌、⑤ 記念登山・観光、⑥ 収支報告

おおむね良かったとの感想の中で、反省点として、次の意見があった。

イ、記念パーティーで、各支部のスピーチの際、私語が多く聴いていない人が目立った。また、他支部との交流を願ってテーブル配置したが、席を立てて仲間と語らう姿が見受けられた。

ロ、主催者である北九州支部の会員の参加者が少ないとの感想が、他支部より出ていた。

7. 山行報告 一山田委員

① 9月22日～27日間の槍ヶ岳合流登山

② 10月23日の九重 男池～吉布トレッキング

8. 山行・行事計画 一関口事務局長、馬場委員

① 11月6日(土)～7日(日) 東九州支部50周年記念行事

② 12月4日 愛鷹連峰の最高峰「越前岳」年次晩餐会のプレ山行

③ 12月7日(火) 安芸の宮島「弥山」

④ 平成23年1月16日(日) 足立山～戸ノ上山縦走

(報告：山田) 以上

平成23年1月度定例委員会報告

日 時 平成23年1月12日(水)
場 所 小倉商工会館3階会議室
出 席 大庭、大楠、伊藤、関口、日向、板倉、馬場、山田、大城戸、高畠
欠 席 磯野

【議 題】

1. 支部長会議 平成22年12月4日 大庭支部長出席
年次晩餐会 同上 当支部より15人出席
2. 会員の異動と会費納入状況について
(馬場委員より報告)
3. 会費未納者(3期以上)の処遇について
本部規定に準拠して、内規を作る。(次回委員会で成文化する)

3、創立10周年記念行事の収支報告

記念誌「ひこさん」は、先月35冊販売し、進行中。

4、山行・行事報告

11月6日(土)～7日(日) 東九州支部50周年記念式典(13人出席)

12月4日(土) 愛鷹連峰の越前岳(年次晩餐会のプレ山行 9人参加)

12月7日(火) 安芸の宮島「弥山」(15人参加)

5、山行・行事計画

平成23年1月16日(日)(新年山行)足立山～戸ノ上山縦走(実施済、登山23人、バックアップ11人、計34人参加)

1月22日(土) 福岡支部主催「岳人の集い」映画と懇親会(大宰府)

2月19日(土)～20日(日) 涌蓋山～久住山(沢水キャンプ場泊)

3月27日(日) 英彦山 清掃登山

6、次回支部報の発行について

7、支部会員入会申込書の改訂版について

8、「山の日」制定運動(パンフ第2号の配布活動)

9、ホームページの刷新と新規運用について

10、その他 (報告 山田) 以上

京都支部からのお知らせ

◎山水会講演会

と き 2月16日(水) 18:30

ところ 同志社大学新町キャンパス内
学生会館2階、246号会議室

講 師 能田 成(京都支部会員)

演 題 「日本海はどう出来たか」

講演内容 昨年度「今西錦司賞」受賞対象となった著書
「日本海はどうして出来たか」の内容を中心に、
日本海の形成について興味深いお話をさせていただきます。

問い合わせ 京都支部事務局メール担当(清水)
kyt@jac.or.jpまで。

自然保護全国集会のお知らせ

日 程 6月11日(土)～12日(日)

場 所 福岡市

主 管 福岡支部

テーマ 屋久島問題

全国支部懇談会

日 程 10月15日(土)～16日(日)

場 所 栗駒山周辺

主 管 宮城支部

会員異動

1. 新会員

本部会員

(氏名) (会員番号) (住所) (推薦者)

福田 陽子 14807 下関市細江町 伊藤久次郎

中野 洋子 14816 下関市彦島 関口 興洋

支部会員

井上 薫 北九445 築上郡築上町 椋本 逸雄

清家 幸三 北九446 北九州市小倉南区 橋爪 久吉



山のニュース

(最近の新聞などのニュースから)

小1、小2兄弟が百名山踏破！
祖父と2年4カ月で

埼玉県ふじみ野市立亀久保小学校の1年生と2年生の兄弟が、日本百名山すべての登頂を成し遂げた。百名山全山を登ったのは、塗装業松本順一さん(35)の長男優人(ゆうと)君(8)と次男拓人(たくと)君(6)。

祖父の馨さん(63)が5歳だった優人君を誘い、県内の山に登ったことがきっかけ。拓人君が「僕も行きたい」と言いだし、3人で山に登るようになった。

2007年7月、日光白根山で挑戦が始まった。2010年の夏休み、28日間を富士登山などに費やした。そして、10月に山梨県の北岳の頂上に立ち、偉業を達成した。(2010年12月29日 読売新聞)

普賢岳に新登山道
島原ルートも復活へ

長崎県島原市は1月4日、雲仙・普賢岳の噴火で生まれた平成新山(1483[㍿])の付近から、東の島原市側に通じる新たな登山ルートを整備する方針を明らかにした。ルートの途中は1991年からの火砕流で寸断されたままになっている。

地元自治体と国でつくる島原半島ジオパーク推進連絡協議会が2012年の「世界ジオパーク国際ユネスコ会議」に合わせ、約2.5[㍿]の新登山道を計画。立ち入り規制のある警戒区域内を経て、平成新山の山頂へ約400[㍿](現在800[㍿])まで近づける。

(1月5日 西日本新聞)

キルギスの山頂 プーチン峰と命名

【モスクワ＝酒井和人】インターファクス通信によると、中央アジア・キルギスのアタムバエフ首相が1月5日までに同国内の無名峰にロシアのプーチン首相の名を冠する法案に署名した。

「ウラジミール・プーチン峰」となるのは北部チュイ州のキルギス山脈にある標高4500mの山頂。同首相が12月24日に署名、近く議会で承認される見通し。

(1月6日 東京新聞)

ヒマラヤ6000m級 連続制覇 美濃の76歳 沢田さん

美濃地方の山岳愛好家らでつくる「みのハイキングクラブ」会員沢田善太郎さん(76)=美濃市広岡町=が昨年11月、ヒマラヤ山系の標高6000m級の二つの山に連続登頂を果たした。日本人登山者としては最高齢の快挙。

ネパールの同山脈中央部にあるチュルー最東峰「(6,038m)」と「チュルー南東峰」(6,429m)の両峰。東京都杉並区の登山家近藤和美(かずよし)さん(69)を隊長に、日本人と現地人サポーター計6人で隊を組み、それぞれ11月3日と同8日に山頂を制した。

(1月9日 東京新聞)

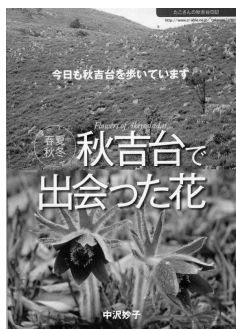
本

紹介

秋吉台で出会った花

中沢妙子 著

A4の半分。1ページに4コマのカラー写真と説明文。約200ページ。著者は、自宅の山口市から毎日、それも12年間、秋吉台に通い(年間300日)丹念に草花を調べ、今回本書を出版。写真も文章も著者の渾身の表現であり、秋吉台の自然を歩く際、ザックに入れておき、植物図鑑にすると同時に、植物の世界の魅力を知るバイブルにもなる。1100円 希望者は、中継ぎ連絡先(北九州支部、原広美会員まで)



訂正とお詫び

1. 支部10周年記念誌「ひこさん」

92ページの左段、上から7行目の「4月1日 1時13分離陸、バンコク・・・息子の車で無事我が家に帰宅する。」の続きが、「韓国クムジヨムサン(金井山)登山」の左段の1行目と2行目に入り込んでいます。訂正してお詫びします。

2. 山の歌本(2010年改訂版)と付属CD6枚

山の歌CDのNo.5(6-5)に収録のNo.23「海ゆかば」とNo.24「同期の桜」の2曲が収録されていないものが、一部のCDにあることがわかりました。訂正してお詫びします。No.5のCDを作り直しましたので、現在該当のCDをお持ちの方はお取り替えいたします。伊藤または原までご連絡下さい。

本

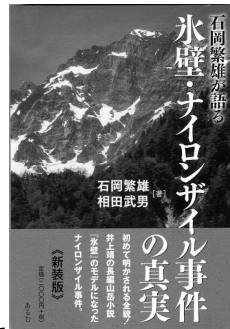
紹介

石岡茂雄が語る

氷壁・ナイロンザイル事件の真実

石岡茂雄・相田武男 著 新装版

初めて明かされる全貌！
井上靖の長編山岳小説『氷壁』のモデルになった、ナイロンザイル事件。本書は2007年1月25日に刊行された「石岡茂雄が語る 氷壁・ナイロンザイル事件の真実」の新装版。事件の記録、書簡、公開質問状などの生々しい資料も掲載。氷壁より面白い。



北九州支部10周年記念講演で、日本山岳会尾上昇会長がナイロンザイル事件の話をされたが、この事件についての資料をネットで探していると、本書の存在を知り、早速ネットで購入、現在読んでいます。(伊藤Q)

定価2000円+税 (株)あるむ TEL052-332-0861

2009年8月15日発行

『諸塚山の第26回山開き』へお誘い

「朝日森林文化賞」の受賞を機に1986年にはじまった宮崎県諸塚山(1,342m)の“日本一早い山開き”は、今年第26回大会を迎え、諸塚村、日本山岳会宮崎支部、朝日新聞社の共同運営で盛大に開催されます。会場ではうた、おどりなどのアトラクション、地元特産のシタケ、はちみつなどが販売され、参加者には記念品も。

◆ と き 平成23年3月5日(土)～6日(日)
小雨・小雪決行

◆ 集 合 A 午前7:30 JR小倉北口・KMMビル前
B 午前7:40 引野口高速バス停
C 午前8:40 JR博多駅前・朝日ビル駐車場

◆ 行 程 3月5日(土)・・・約3時間歩く
小倉⇒博多⇒九州道⇒小岱山(501m)
⇒五ヶ瀬温泉⇒飯干公民館(前夜祭)
★ 宿:「溪流の里」(ログハウス)

◆ 行 程 3月6日(日)・・・約3時間歩く
宿舎⇒緑地広場(山開き式典)⇒諸塚山頂(1,342m)⇒広場(交流会)⇒五ヶ瀬(入浴)⇒九州道⇒博多⇒小倉

◆ 参加費 16,000円

◆ 参加申込 出来るだけハガキか、Faxで2月11日(金)まで。(電話でも可)

【申込み・問合せ先】

溝部 Tel・Fax 0940-33-6353

No.	氏 名	会 員 番 号	住 居 地
1	秦野 一彦	04325	北九州市八幡西区
2	大庭 常生	11395	北九州市若松区
3	関口 興洋	13643	北九州市門司区
4	末吉 史忠	13642	北九州市門司区
5	大楠 益弘	13465	北九州市門司区
6	原 広美	11990	下関市長府
7	村上 強	13708	北九州市小倉北区
8	伊藤久次郎	13499	田川市平松町
9	浦田 和夫	13530	北九州市門司区
10	藤田 傳	13722	北九州市八幡西区
11	西村 信子	13520	京都郡みやこ町
12	板倉 健一	13471	北九州市門司区
13	磯野 文雄	13533	糟屋郡新宮町
14	太田 満	13819	田川郡福智町
15	馬場 基介	13532	北九州市門司区
16	中村 昭彦	13991	下関市武久町
17	大城戸昌敏	11979	北九州市八幡西区
18	西村 俊二	13810	京都郡みやこ町
19	高畠 拓生	13541	嘉麻市上山田
20	宮城 尚志	13987	飯塚市大分
21	山田 武史	13992	福岡市早良区
22	横山 洋子	13804	下関市新垢田
23	片山 俊昭	13738	京都郡菟田町
24	片山 礼子	13739	京都郡菟田町
25	江頭 精一	10448	北九州市小倉南区
26	兼光 功	13467	北九州市八幡東区
27	舛木 隆	13534	北九州市門司区
28	濱松 禮子	13523	行橋市西泉
29	丹下 治	14264	北九州市門司区
30	丹下香代子	14554	北九州市門司区
31	藤田 優	11459	下関市吉田
32	三宅 清和	13540	中津市中央町
33	椋本 逸雄	14690	築上郡築上町
34	大木 康子	14498	北九州市小倉北区
35	小林 富雄	14317	福岡市東区
36	平野 一幸	14691	糟屋郡須恵町
37	大内喜代子	14689	下関市秋根
38	榊 俊一	14523	糟屋郡篠栗町
39	中岡 邦男	14206	直方市上頓野
40	林 大輔	北九444	福岡市中央区

山行計画のご案内

2月の山行

(予定では山口県の冠山でしたが、ここ2年雪が無かったので、九重に変更しました)

九重冬山訓練(テント泊)2/19~20

と き 2月19日(土)~20日(日)

ところ 九重「沢水」キャンプ場(泊)

行程 2/19(土) 9:00、豊前の「おこしかけ」集合。湧蓋山に登り、沢水のキャンプ場でテント泊(シュラフ必要)。

2/20(日)展望台から今水を登山口にして、久住山または大船山に登り、16:00ごろ、おこしかけに戻る。

費用 食料、交通費など実費

申込 内藤正美まで

締切 2月10日

なお、スノーシュー、ワカン、アイゼン、ピッケルのある人は持参のこと。

3月の山行

「英彦山」清掃登山 3/27

と き 3月27日(日)

集合 9:15、別所駐車場集合

携行品 昼食、軍手、長挟み、ゴミ袋(当日配布予定)など

申込み 関口興洋、伊藤久次郎

締切 3月20日

4月の山行

「陶ヶ岳」岩登り訓練 4/17

と き 4月17日(日)

集合 午前8:00、下関火の山パーキング

または9:00陶ヶ岳登山口駐車場

携行品 昼食、ヘルメット、ハーネス、エイトカン、カラビナ、スリングなど

申込み 板倉健一(自宅093-321-1038 携帯080-2719-0402)

締切 4月9日(土)

サロンルーム 毎月第4水曜日

2月のサロンは、11日(金)に変更

当日は、14時から毎日会館で、映画「氷壁」を上映。終了後サロンを開きます。

3月のサロンは、23日(水)

4月のサロンは、27日(水)

時間 午後6時30分から

場所 小倉北区魚町「コールド」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワカン制です)



5月の山行

雷山~井原山縦走(ミツバツツジ観賞)

と き 5月1日(日)

集合 午前9:00。雷山観音の駐車場

行程 雷山観音駐車場~清賀の滝~上宮~雷山頂上~井原山~アンの滝~山の家~雷山観音駐車場(5~6時間)

申込 山田武史(TEL/FAX092-844-3563)

締切 4月20日

剣・源治郎尾根をめざそう!



おさそい
仲間募集

去年は、映画「点の記」コースをたどって、剣岳の長次郎谷に登りました。今年は、同じ剣岳の源治郎尾根に登りたいと思っています。そのための、同じザイルパートナーを求めています。岩登りの経験ある方、また、将来ザイルを使って登ってみたい若い方、まずは4月から毎月第2日曜日に、岩登りの訓練をいたします。バリエーションルートに興味のある青年同志諸君!、連絡をお待ちします。

第1回訓練 陶ヶ岳岩登り

と き 4月10日(日)

ところ 山口市陶ヶ岳(252m)

集合 午前8:00、下関火の山パーキング
または9:00陶ヶ岳登山口駐車場

携行品 昼食、ヘルメット、ハーネス、エイトカン、カラビナ、スリングなど

連絡先 青年部ひとり No.14476 武永計介

TEL 090-4898-4462

Eメール 25082u@ube-ind.co.jp

編集後記

○支部報編集担当者募集します。
支部報を担当して8年、最近目は悪く、認知症やボケも感じられ、持病の心臓病、腰痛、ぜんそくも悪化。このままでは日本山岳会に対して、多大なる被害を与えることになりはせぬか、と思っています。ポチポチ世代交代のために、支部報の編集に興味のある方、やっていただける方を募集します。お待ちしております。伊藤Q

○山の原稿は、

〒826-0032 田川市西平松11-8

伊藤久次郎宛。TEL/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿(写真も含む)は、

アドレス rw4ux6@bma.biglobe.ne.jp です。